

五月の御教え

人の心は移り変わりやすいものである。人を頼りにするから、腹を立てたり物事を苦にしたりすることになる。人に向かう心を神に向けよ。神は、願えば何でも聞き届けてくださる。

……「天地は語る」第七十六条……

解説

「人に向かう心を神に向けよ」との御教えであります。かつて私が二十代の頃本部広前で、先に御取次を頂いている人に、四代金光様が「貴方は、相手が挨拶を返してくれなかったと言って腹を立てるくらいなら、最初から挨拶をしない方がよい。挨拶は見返りを求めるのではなく貴方が気持ちよくさせて頂いたらそれで良いではないですか」と仰っているのが聞こえてきました。後日、同じく本部広前で、或る失礼な態度の信奉者に対して、四代金光様が何ら気にすることなく、威厳を持って明快に取次されているお姿を拝見し、感嘆するとともに「人に向かうより、神様に心に向けよ」との、金光大神のご理解の實際を分からされました。金光様の御取次は融通無碍で正に天地と共に在る感が致しました。